

第39回京都教育センター研究集会

1月24日(土)～25日(日) 教育文化センター(全館)

[左京区聖護院川原町4-13] Tel.075-771-4221 京阪電車「丸太町」5番出口より徒歩3分

【集会テーマ】 今日の子ども・学校の困難を検証し、共感とつながりを広げよう!

24日(土)

教文 302号室

プレ集会 10:00～12:00 『旭丘事件』を通して1950年代の教育を考える

山本正行さん (旭丘闘争原告、前京都退職教職員の会会長)

◆ コメント:京都歴史ワーキンググループ (教育センターを拠点に研究する若手研究者集団)、教え子など

全体会 13:00～17:00

◆ 記念講演 **高垣 忠一郎さん**

(立命館大学教授、臨床心理学者)

「競争社会に向き合う自己肯定感」

—— 子どもに、自分を愛する心を ——

◆ パネル討論:「格差社会と教育の貧困」

・仙田富久さん(京都児童相談所) ・深澤 司さん(綴喜、田辺東小)・
・佐伯宗信さん(府学連委員長)

コーディネーター 築山 崇さん(京都府立大学教授)



25日(日)

分科会

10:00～16:00 [分科会の詳細は裏面に]

参加費(資料代) 500円 [学生無料]

講師の紹介

【高垣 忠一郎さん】 1944年、高知県生まれ。京都大学教育学部卒業、現在立命館大学教授



主要著書:「自己肯定感ってなんやろう?」(かもがわ出版)「競争社会に向き合う自己肯定感」(新日本出版社)「揺れつ戻りつ思春期の峠」(新日本出版社)。

登校拒否の子どもやその親のカウンセリング活動を通じて、今日の社会における子ども、とりわけ思春期の子ども達の心の発達と病理について研究されている。

【山本正行さん】 1928年、京都市生まれ。同志社中・現京都工繊大卒。洛陽工業高校(応用化学)教壇に。旭丘中6年目の1954年、政府の「偏向」教育攻撃で懲戒免職処分に。以降、京都組教文部長として教育センターの設立に尽力され、市教組役員を歴任。退職後も京退教や子どもを守る会、互助組合などの分野で活躍。

